

ゆうかり放送委員会提供

ゆうかりに乾杯

第1回放送の概要 (2009年4月25日放送)

パーソナリティ

さくら (安本久美子)
タロウ (佃 由晃)
なかちゃん (中嶋邦弘)

コアラさんの地域瓦版

アコちゃん (三木文子)



ミキサー

門ちゃん (門田成延)
一ノ瀬悟

相談役

わだかん (和田幹司)

会計

小山俊則

“放送開始直前の“がんばろう会”

今日は昼網の新鮮な魚介類と季節の食材を地酒、焼酎で楽しめる三宮の旬菜工房 **有味庵** (うまいあん) さん (078-332-0300) のご協力をいただきました。

1. オープニング

番組の構成は、ゲストを招いてのお喋り、地域情報、母校の情報などをお届けします。番組のスタッフは全員兵庫高校の卒業生で、情報担当のアコちゃん(70 陽会)を除いて、総て 49 陽会です。兵庫高校の前身である神戸第二中学校以来のシンボルである「ゆうかり」と同窓会の名前でもある「武陽」についてその由来を確認した。

「ゆうかり」について；

学校のシンボルであり私たち武陽人の心の支えである「ゆうかり」が植えられたのは二中(神戸第二中学校)が創立された1908年(明治41年)である。当時のグラウンドは地盤が軟弱であったため湊川原の砂を運び「ゆうかり」を植樹した。しかし卒業後の昭和39年に台風により折れて枯れてしまった。現在はオーストラリアから苗をもらい植樹したものが玄関と校庭の奥に植えられている。

「武陽」について；

「武は六甲山、陽は南の地をあらわす。従って武陽は六甲山の南の地である。」というのが由来のようである。二中の同窓会がこの名を付けた経緯については定かでないが、湊川は六甲山の南の地を流れ、その一帯は武陽が原である。「武」が六甲山であることについては、『ロッコウ(六甲)山と言う呼び名は、江戸時代でもムコ(武庫)山の方が多く使われており、武庫の字に六甲の字をあて、ロッコウと呼ぶのは1668年(寛文8年)に没した元政上人の詩が初出といわれている。また、「陽」の意味は、「大修館書店 大漢和辞典」では最初の項に「ひなた(イ)山の南面の地」と記されている。

2. ゲストコーナー：本番組提供のいきさつについて

F Mわいわいは大震災の後、多文化共生ということで取り組まれたもの。和田さんは新長田

駅前では追悼行事「1.17 KOBE に灯りを in ながた」をすでに11回実施してきた。3年前より49陽会の参加が増え、今年は10人以上の参加があり、追悼行事をきっかけにFMわいわいの「アフターヌーンねね」などの番組にも数人出演するようになり、そのようなパワーのある49陽会を見て、番組を持たないかとの誘いがあった。また番組を持つことにより、武陽会の先輩、後輩だけでなく現役高校生にも広がっていけばよいと考え番組提供をすることになった。放送を続けていくためCMも取り入れていきたいし、番組の輪は兵庫高校に限定するものではなく、長田高校や須磨高校など他校にも広げていきたい。「高校」というキーワードで上下、横、東京、海外(フランス、ニューヨークなど)にも広がりが出来れば益々楽しくなり、この番組に負けない新番組を作ろうという気運が生まれることを期待したい。

番組が生まれた原点が「1.17 KOBE に灯りを in ながた」であることを常に忘れず取り組みたい。また現役時代の裃(かみしも)をはずし、素直な自分の気持ちを発露する場にしたい。

FMわいわいは多文化共生ということでアジア、中南米の地域の方が参加しているし、アコちゃんコーナーの出だしも各国の子供たちの言語による挨拶を取り入れている。年齢、国の枠を超えて仲良くやっていくことを目指し、ゲストも色々な方をお呼びしたい。

3. ゆうかり大好きコアラさんの地域瓦版

- 4月28,29日 **兵庫高校文化祭**、テーマは「101(トイと呼ぶ)ストーリー」
28日は学校関係者のみ、29日は一般公開
- 5月2日 **第28回須磨大茶会**(須磨寺本坊、寿楼本館)一絃須磨琴の演奏あり
- 5月8日 **兵庫、神戸高校伝統の定期戦**(男女バレーボール、柔道部、男女軟式テニス部、サッカー部、野球部)
- 5月9,10日 **第9回新開地音楽祭**、テーマは「昭和歌謡×バンド」
プロ、アマバンド100組が出演、アート縁日、子供広場、フリーマーケット、屋台の出展有
- 5月16,17日 **神戸祭り**、16日は各区、17日は三宮でメインフェスティバル

4. 次回(5月23日)の予定

震災の体験を、行政の立場で経験した同窓生である中嶋さん(兵庫県)、不老さん(神戸市)から話を聞く。

番組に対するご意見、ご感想はこちらまで：buyou49@nifmail.jp